

## W i n d o w s N T 4 . 0 について ( 3 )

( W i n 9 5 から N T 4 . 0 への移行について )

業務上で活用する時にいろいろの優れている面のある N T 4 . 0 ですが、実際に W i n 9 5 のパソコンにインストールするにはどうすればよいのでしょうか。

N T 4 . 0 では D O S 版などのデバイスドライバ ( S C S I ドライバソフト、グラフィックアクセラレータ用ドライバソフトなど ) が利用できません。つまり、インストールしようとするパソコンで使用するドライバがそろわなければ、インストールできないこととなります。そのために、ドライバの無い物があればまずインターネットなどを使って集める必要があります。しかし、L A N カードなどでドライバがメーカーから供給されていなければ、使うことをあきらめなければなりません。

次に N T 4 . 0 はインストールに 1 6 5 M b y t e 以上のハードディスクの空き容量が必要ですので、容量をチェックします。N T 4 . 0 はデータを圧縮して容量を大きく使う W i n 9 5 の D o u b l e S p a c e などをサポートしていませんので、通常の F A T 領域として 1 6 5 M b y t e 以上が必要です。

W i n 9 5 で a u t o r u n 機能を有効にしてあれば、N T 4 . 0 のインストール C D - R O M を挿入することによってインストールプログラムが自動起動されます。インストールは、既存の W i n 9 5 をそのままにしておくマルチブート環境を自動的に構築するようになっています。マルチブート環境の場合、起動をかけるとまず「スタートメニュー」が表示され、N T 4 . 0 か W i n 9 5 のどちらか起動の選択を行うことができます ( 但し、そのままにしておけばタイムアップで N T 4 . 0 が起動します ) 。もちろん、N T 4 . 0 のみを残すインストールを行うこともできます。インストールを実行すると、システムに接続されたデバイスを自動的に操作してそれらに対応したドライバを組み込むようにほとんど自動的に実行することができます。

もし、インストールがうまく行かない場合、次の点を検討して再度実行します。

- ・ B I O S の設定をデフォルトに設定する
- ・ B I O S の A P M 設定を無効にする
- ・ B I O S の P l u g & P l a y 関連設定を無効にする
- ・システムに必須なカード以外をはずしてインストールを行い、インストールがうまく行った後で 1 枚ずつポートをセットアップする

W i n 9 5 で使っていたアプリケーションは、そのまま N T 4 . 0 をインストールするだけでは使用できませんので、改めてインストールします。この場合、同じディレクトリにインストールすることによってディスク容量を節約することができます。ただし、すべてのアプリケーションが N T 4 . 0 で使えるとは限りませんので、注意が必要となります。

N T 4 . 0 を使って使用上問題がなく、W i n 9 5 が必要でなければ、W i n 9 5 のディレクトリを削除して、N T 4 . 0 の単独システムとすることができます。

(情報誌トピックス)

○ 経コンビ 2月3日号

特集 イントラネット拡大の死角

→イントラネットが拡大しつつあるが、思わぬ問題に直面している。インターネットは通信プロトコルとしてTCP/IPを使用しているが、個々のパソコンを認識するためにIPアドレスがつけられている。IPアドレスは、パソコンごとに異なり、爆発的にインターネットへの接続が増加したためこのIPアドレスの枯渇が問題となってきた。大量に必要な企業は「プライベートアドレス」と呼ぶ方法を導入して解決しようとしている。

特集 ソフト資産の快速整理法

→2000年問題を契機にソフトの整理が行われている。ソフトを整理し必要なプログラムと不十分なプログラムを切り分けることによって、2000年対応工数を大幅に削減し、その後の保守も簡単にすることができる。

トレンド パソコンサーバが世代交代

→NT4.0を搭載し、性能向上に拍車

○ 経エレカエロニクス 2月10日号

特集 最新のLSI開発から情報通信の明日を見る

→LSI回路技術に関する世界最大の国際会議ISSCC97において、発表された、マルチメディア機の性能を向上させ、大規模化による携帯型情報処理端末を現実のものとしようとしているLSIの紹介

解説 ノートパソコンの活況で成長取り戻した液晶市場

→96年度はノートパソコンの売り上げ増加によって24%成長したが、97年度には一段落する模様。三菱は、コンパックと提携して、金融市場、医療向けの液晶モニタを97年半ばまでに発売する

○ 経パソコン 2月10日号

特集 Pentium Pro vs MMX Pentium

新型CPUと搭載パソコンを徹底分析

→MMXはマルチメディア対応の機能で、音声処理、動画処理などが60%速くなる(但し、専用の命令を使用した場合)。このCPUの内容と今後のCPUの動向、搭載パソコンの紹介

ニュートレンド グループウェアがイントラネットを変える

→グループウェアがWWW対応となることによって、これまでどちらかといって一方通行であったイントラネットが、双方向情報システムに生まれ変わり本格的に立ち上がる

○ 経ネット 2月号

特集 サイバーモールが進化する

→エレクトロニックコマース(電子商取引)の先導役を担うサイバーモールが正念場を迎えている。店舗をならべるだけのものから、ユーザの顔が見

えるイベント性、商店街とクロスオーバーするものへ変化しつつある。

トレンド 安くて早い衛生データ通信が日本上陸

→三菱も参加しているDirect PCがサービスを始めた。まずはCD-ROMの配布に変わる格安なコンテンツ配布手段として。一般ユーザ用は秋からスタートするが、データのUP方向は電話回線を使うことになる。

クローズアップ 動画へ関連情報をリンクできるビデオ制作ソフトを三菱電機が開発

→情報総研がビデオからパソコンに取り込んだ動画像にインタラクティブ性を持たせ、関連情報を隣することができるソフトを開発し、4月に商品化する

○ ~~経~~ ~~済~~ ~~オ~~ ~~ン~~ ~~ジ~~ ~~ス~~ ~~テ~~ ~~ム~~ 2月号

特集 NTシステムに潜む障害の回避

→NT4.0を使ったシステム構築が始まっているが、企業システムの環境としてはまだ問題点が残っている。検証を怠らず、特性をきっちり把握することが必要となっている。

検証 Windows NT 4.0

中小規模のシステムでは3.51との性能差は少ない

サーベイ PC AT互換機で稼動するファイヤーウォール

セキュリティ機能の拡張続く Windows NT版も登場

○ ~~I~~ ~~A~~ ~~N~~ ~~T~~ ~~T~~ ~~I~~ ~~M~~ ~~E~~ 3月号

特集 Windows NT 4.0で加速するNOSのマイグレーション

→12月にNT4.0とIntranetWareが相次いでバージョンアップされ、ネットワークシステム全体の勢力分布が大きく変わろうとしている。サービス別に見た最適なNOSの選択やイントラネットの導入方法について解説。

INTEGRATION リモートアクセス問題を解き明かす

→要求が高まってきているリモートアクセスについて、どのように運用すればよいかを解説（米国版）

○ ~~D~~ ~~O~~ ~~S~~ ~~／~~ ~~V~~ ~~m~~ ~~a~~ ~~g~~ ~~a~~ ~~z~~ ~~i~~ ~~n~~ ~~e~~ 2月15日号

特集 MMX Pentium完全理解

→MMX技術の解説と製品紹介、CPUの動向まで

特集 日本語変換エンジンを究める

→書く日本語変換プログラムの状況

○ ~~P~~ ~~C~~ ~~W~~ ~~A~~ ~~V~~ ~~E~~ 3月号

特集 3Dビデオカードと対応ゲーム

→3D対応カードを内蔵したパソコンが発売されているが対応したソフトが少ない。カードとゲームの現状について

特集 インターネット電話とテレビ電話

→手が届くようになったインターネット電話とテレビ電話の特集